

2009年度後期人権研修会

立ち上がる選択

—性暴力という人権侵害を減らすために—

講師：大藪 順子（おおやぶ のぶこ）
フリーフォトジャーナリスト
全米性暴力調査センター名誉理事

開催日：2009年10月15日（木）
時間：13：10～14：50
会場：6号館 地下1階 6103教室

講演会当日、講師の作品を展示した
写真展を開催します。
講演の前後にぜひお立ち寄りください。

開催場所：将軍山会館1階
オープンカフェスペース
開館時間：9：30～17：00

掲載している人権研修会に関連する資料を
“特別展示コーナー”で展示しております。
どうぞご利用ください。

【展示期間】
10月8日(木)～10月22日(木)

【展示場所】
図書館2階 渡り廊下
新着図書コーナー右隣

講演者著作

請求記号	タイトル	編著者名	出版者	出版年
916/OYA	STAND : 立ち上がる選択	大藪順子著	いのちのことば社フォレストブックス	2007

講演者関連記事 (※1)

論文タイトル	著者	雑誌名	巻号	出版年月日	ページ数
写真展「STAND」大藪順子「性暴力被害者の素顔と心を撮る理由」	長田美穂	読売ウイークリー	66(49)	2007/11/11	p.96-98

関連記事 (※1)

論文タイトル	著者	雑誌名	巻号	出版年月日	ページ数
ネット上に氾濫する児童ポルノ-性暴力の被害現場の画像を世界中にばらまかれる少女たち	磯崎由美	中央公論	122(1)	2007/1	p.256-263
あなたは悪くない SANE-性暴力被害者を救う看護師	長田美穂	読売ウイークリー	67(19)	2008/5/4	p.76-78
子ども・女性の性暴力被害を未然に防ぐために-女性支援の現場から	横田千代子	福祉のひろば	108	2009/3	p.34-37
カリフォルニア・ピープルパワー-多文化共生への道:性暴力の泣き寝入りをさせない社会の仕組みこそ財産	Miho Althea Kim	週刊金曜日	17(32)	2009/8/28	p.21

関連記事 (※2)

論文タイトル	著者	雑誌名	巻号	出版年月日	ページ数
女性に対する性暴力の一形態 : なぜ性暴力映像は容認されるのか	浅野千恵	現代思想	31(1)	2003/1	p.174-187
性暴力とPTSD (特集 ジェンダーと法)	宮地尚子	ジュリスト	1237	2003/1/1・15	p.156-173
性暴力を子どもたちに教える (特集/暴力の世紀に、暴力を越える教育実践を考える)	石島崇	教育	55(8)	2005/8	p.42-47
性暴力の加害者をつくらないために--光母子殺害事件に思う (特集 ジェンダーと人権)	谷口和憲	月刊社会教育	51(3)	2007/3	p.50-52

※1 貸出できません (貸出期間は1週間です)

※2 書庫内製本雑誌のため、貸出はできません (館内での閲覧・複写は可能です)

性犯罪とは・・・

性犯罪は刑法では、強姦、強制わいせつ、淫行勧誘罪の他、道徳的秩序に対する罪として、公然わいせつ、重婚罪、およびわいせつ文書・凶画の配布・販売などの規定がある。

『家族心理学事典』 日本家族心理学会監修 金子書房 1999年
開架 (主題別参考図書) J367.3/KAZ (001379734) p.188



性犯罪には、「若い女性が被害に遭う」というイメージがありますが、性犯罪は若い女性だけが被害者となる犯罪なのですか。



性犯罪のうち強姦、強制わいせつの平成14年から平成18年の5年間の認知から被害者の年齢をみると、強姦では13歳以上24歳以下の女性が71.1%を示し、強制わいせつでも13歳以上24歳以下の女性が61.7%を示しており、確かに統計上は若い女性が多数を占めていますが、その一方で13歳未満が強姦で3.6%、強制わいせつで16.0%を占め、また、60歳以上が強姦で0.9%、強制わいせつで0.3%を占めています。被疑者の中には

- 簡単に言うことを聞く
- 身体的に犯行に対する抵抗が弱い
- 羞恥心の強さから警察に対する被害申告がなされにくいなどの理由から幼児や高齢者ばかりを狙う者がいます。

また、強制わいせつにおける男性の被害者は、被害者のうち2.7%を示し、特に13歳未満の男子は男性被害者の54.1%を占めます。したがって、被害者は若い女性だけとは限りません。



『性犯罪被害者対応ハンドブック[再訂版]』性犯罪捜査研究会編著 立花書房 2008年
開架 368.6/KEI (100014331) p.7

被害者の声

請求記号	書名	編著者名	出版者	出版年
327.9/UTA	訴える女たち：レイプ裁判の記録	ショワジュール編；中山真彦訳	講談社	1979
367.1/NAK	心への侵入：性的虐待と性暴力の告発から	中嶋一成, 宮城由江著	本の時遊社；星雲社(発売)	1999
369.4/DAR	誰にも言えなかった：子ども時代に性暴力を受けた女性たちの体験記	エレン・バス, ルイーザ・ソーントン共編；森田ゆり訳	築地書館	1991
369.4/MOR	沈黙をやぶって：子ども時代に性暴力を受けた女性たちの証言+心を癒す教本(ヒーリングマニュアル) [4刷]	森田ゆり編著	築地書館	1997
916/KOB	性犯罪被害にあうということ	小林美佳著	朝日新聞出版	2008
936.7/LEH	私たちは、性犯罪被害者です：実名で告白する、「レイプ・性虐待の恐怖」と「克服する勇氣」	キャロライン・リーマン著；小西敦子訳	青志社	2009
956/DAR	すべて忘れてしまえるように：少女監禁レイプ殺人犯と暮らした80日間	サビーヌ・ダルデンヌ著；松本百合子訳	ソニー・マガジンズ	2005

犯罪被害者への心のケア・支援

請求記号	書名	編著者名	出版者	出版年
070.1/HAN	「犯罪被害者」が報道を変える	高橋シズエ, 河原理子編	岩波書店	2005
146.8/BAS	生きる勇気と癒す力：性暴力の時代を生きる女性のためのガイドブック	エレン・バス, ローラ・デイビス著	三一書房	1997
326.3/HAN	犯罪被害者サポートブック	Office KaKu編	自由国民社	2002
326.3/HAN	犯罪被害者支援とは何か：附属池田小事件の遺族と支援者による共同発信	酒井肇 [ほか] 著	ミネルヴァ書房	2004
326.3/HAN	犯罪被害者等基本計画の解説	番敦子, 武内大徳, 佐藤文彦著	ぎょうせい	2006
326.3/HIG	被害者と加害者の対話による回復を求めて：修復的司法におけるVOMを考える	藤岡淳子編著	誠信書房	2005
326.3/KON	犯罪被害者の心の傷 [増補新版]	小西聖子著	白水社	2006
326.3/KON	犯罪被害者のメンタルヘルス	小西聖子編著	誠信書房	2008
326.3/KOZ/5	犯罪被害者に対する民間支援 (講座被害者支援 5)	大谷實, 山上皓編集代表	東京法令出版	2000
327.6/TAK	犯罪被害者保護法制解説 (Sanseido law capsule) [第2版]	高井康行, 番敦子, 山本剛著	三省堂	2008
367.1/BAN	DV・虐待加害者の実体を知る：あなた自身の人生を取り戻すためのガイド	ランディ・バンクロフト著	明石書店	2008
367.3/KAZ/21	家族カウンセリングの新展開 (家族心理学年報 21)	日本家族心理学会編	金子書房	2003
367.6/GAR	少年への性的虐待：男性被害者の心的外傷と精神分析治療	リチャード・B・ガートナー著；宮地尚子ほか訳	作品社	2005
367.6/HAL	リンダの祈り：性虐待というトラウマからあなたを救うために	リンダ・ハリディ=サムナー著；箱崎幸恵構成・監訳	集英社	2003
367.6/ISH	子どもの性虐待：スクールカウンセラーと教師のための手引き	石川瞭子著	誠信書房	2005
367.6/NAK	全図解セクハラ・DV・ストーカー・ちかん：被害者を救う法律と手続き：見る・読む・知る	中野麻美, 飯野財著	自由国民社	2003
367.6/SEI	性暴力を生き抜いた少年と男性の癒しのガイド (性虐待を生きる力に変えて：大切な存在であるあなたへ6) [初版]	グループ・ウィズネス編	明石書店	2005
367.6/WOR	Working with women：性暴力被害者支援のためのガイドブック	フェミニストセラピー研究会編	フェミニストセラピー研究会	1999
368.6/KEI	性犯罪被害者対応ハンドブック：性犯罪被害の発生・届出そのとぎのために [再訂版]	性犯罪捜査研究会編著	立花書房	2008

請求記号	書名	編著者名	出版者	出版年
368.6/SAB	サバイバーズ・ハンドブック：性暴力被害回復への手がかり [改訂版]	性暴力を許さない女の会編著	新水社	2002
493.7/TOR	トラウマとジェンダー：臨床からの声	宮地尚子編	金剛出版	2004

Q

性犯罪被害者の受ける被害の実情はどのようなものですか。

A

性犯罪被害者の受ける被害には、犯罪行為によって身体に障害を負わされる身体的被害や、精神に大きなショックを受ける精神的被害、けがの治療費の負担などの経済的被害といった犯罪行為そのものによる直接的被害のほか、被害後の刑事手続、医師の対応により新たに受ける精神的ショックや、被害に遭ったことを理由に、周囲や報道機関から不利益・不快な取扱いを受けるなどの二次的被害があります。



『性犯罪被害者対応ハンドブック[再訂版]』性犯罪捜査研究会編著 立花書房 2008年
開架 368.6/KEI (100014331) p.9

犯罪抑止

請求記号	書名	編著者名	出版者	出版年
051/GEN	性虐待の未然防止：現場からの報告（現代のエスプリ No.496）	石川瞭子編集	至文堂	2008
051/GEN	加害者臨床：憎しみの環を断つために（現代のエスプリ No.491）	廣井亮一編集	至文堂	2008
367/NOB	加害者は変われるか？：DVと虐待をみつめながら	信田さよ子著	筑摩書房	2008
368.6/FUJ	性暴力の理解と治療教育	藤岡淳子著	誠信書房	2006
368.6/HIG	広島で性暴力を考える：責められるべきは誰なのか？：性・家族・国家：H8へようこそ・H8とは何か…（Hiroshima・1000シリーズ 12）	東琢磨編	ひろしま女性学研究所	2009
368.6/HIT	1人暮らしの防犯マニュアル：かんたんな工夫で身を守る！	生活安全向上委員会編著	PHP研究所	2004
368.6/KON	一人暮らしの女の子のための88の法則：Safety Hand Book	近藤陽介&一人暮らしの女の子を守る術研究会著	STUDIO CELLO	2007
368.7/HAR	性非行少年の心理療法（有斐閣選書 1645）	針間克己著	有斐閣	2001
368.7/KAH	回復への道のり：パスウェイズ：性問題行動のある思春期少年少女のために（性問題行動・性犯罪の治療教育 2）	ティモシー・J・カーン著；藤岡淳子監訳	誠信書房	2009
369.4/KOD	子ども性虐待防止白書：子どもポルノ・子ども買春・家庭での性虐待・スクールセクハラ・痴漢（ウイメンズブックス・ブックレット 3）	子ども性虐待防止市民ネットワーク・大阪編	ウイメンズブックストア松香堂書店	1997
SI/中公/1888	性犯罪者から子どもを守る：メーガン法の可能性（中公新書 1888）	松井茂記著	中央公論新社	2007

性と社会政策

請求記号	書名	編著者名	出版者	出版年
367.1/FEM/4	性・暴力・ネーション（フェミニズムの主張 4）	江原由美子編	勁草書房	1998
367.1/WAK	女性の身体と人権：性的自己決定権への歩み	若尾典子著	学陽書房	2005
367.23/ELM	国家は女性虐待を救えるか：スウェーデンとアメリカの比較	エイミー・エルマン著；細井洋子，小宮信夫訳	文化書房博文社	2002
367.6/HAR	一人ひとりの性を大切に生きて：インターセックス、性同一性障害、同性愛、性暴力への視点	針間克己〔著〕	少年写真新聞社	2003
367.6/NAK	ポルノグラフィと性暴力：新たな法規制を求めて（福島大学叢書新シリーズ 5）	中里見博著	明石書店	2007
367.6/TSU	性の法律学（有斐閣選書）	角田由紀子著	有斐閣	1991
367.6/TSU	性差別と暴力（有斐閣選書 205．性の法律学 続）	角田由紀子著	有斐閣	2001
367.6/UEM	性的自由と法（香川大学法学会叢書 2）	上村貞美著	成文堂	2004
368.6/GRI	性の神話を超えて：脱レイプ社会の論理（講談社選書メチエ 47）	スーザン・グリフィン著；幾島幸子訳	講談社	1995
384/DUE	性と暴力の文化史（叢書・ユニベルシタス 574．文明化の過程の神話 3）	ハンス・ペーター・デュル〔著〕；藤代幸一，津山拓也訳	法政大学出版局	1997

強制わいせつ罪とは・・・

強制わいせつ罪とは、13歳以上の男女に対して、暴行または脅迫を加えてわいせつ行為をすること、あるいは13歳に満たない男女に対して、わいせつ行為をすることである（刑法176条）。ここでは、被害者として男性もあげられているが、圧倒的に女性が被害者となることが多く、チカン行為がこれにあたる。ただし、強制わいせつ罪が成立するためには、判例によれば「犯人の性欲を満足させる意図がなければならない」から、単に仕返しとか侮辱の目的でわいせつ行為をしても罪にはならない。しかし、女性からみれば、犯人の意図がどうであろうと、わいせつ行為をされたことに変わりないのであり、判例には疑問がある。

強姦罪とは・・・

強姦罪とは、暴行または脅迫を加えて13歳以上の女性と性交すること、あるいは13歳に満たない女性と性交することである（刑法177条）。13歳以上の女性の場合には、女性の承諾があれば強姦罪とはならず、暴行・脅迫を加えて性交した場合にのみ強姦罪となる。13歳未満の女性に対しては、暴行・脅迫を加えた場合はもちろん、本人の承諾があった場合でも強姦罪となる。



『女性生き生き事典』 渥美雅子編著 東京書籍 1997年
開架（主題別参考図書） J320.3/JOS (001000967) p.442

性暴力

請求記号	書名	編著者名	出版者	出版年
143.6/GHI	男はなぜ暴力をふるうのか：進化から見たレイプ・殺人・戦争	マイケル・P・ギグリ エリ著；松浦俊輔訳	朝日新聞社	2002
367.1/JEN	ジェンダーと暴力：イギリスにおける社会学的研究 (明石ライブラリー 33)	ジャルナ・ハマー、メ アリー・メイナード編 ；堤かなめ監訳	明石書店	2001
367/JUD/2	デートレイプってなに?：…知りあいからの性的暴力 (10代のセルフケア 2)	アンドレア パロット 著；富永星訳	大月書店	2005
368.6/BRO	レイプ・踏みにじられた意思	S.ブラウンミラー著； 幾島幸子訳	勁草書房	2000
368.6/MIY	性暴力(レイプ)：ドキュメント	宮淑子著	サンマーク出版	1984
368.6/SUG	レイプの政治学：レイプ神話と「性=人格原則」	杉田聡著	明石書店	2003
368/BEN	レイプ・男からの発言	ティモシー=ベイネケ [著]；鈴木晶、幾島 幸子訳	筑摩書房	1988
368/VIG	強姦の歴史	ジョルジュ・ウヰガ レロ著；藤田真利 子訳	作品社	1999

性的虐待

請求記号	書名	編著者名	出版者	出版年
367.6/ISH	親族による性的虐待：近親姦の実態と病理	石川義之著	ミネルヴァ書房	2004
369.4/HOZ	甦える魂：性暴力の後遺症を生きぬいて：なぜ生きる のがつらいのか、人にとって子供時代とは	穂積純著	高文研	1994
369.4/HOZ	解き放たれる魂：性虐待の後遺症を生きぬいて：子 供時代の呪縛からの解放	穂積純著	高文研	1999
369.4/KIO	記憶の底から：家庭内性暴力を語る女性たち	トニー・A・H・マクナロン、 ヤロウ・モーガン編著； 長谷川真実訳	青弓社	1995
916/KAW	性虐待の父に育てられた少女：蘇生への道	川平那木著	解放出版社	2005

性的虐待とは・・・

性的虐待は、家庭の内外で起こる、被害者の意に反し、または意を無視した強制的で非合法的な性的加害および被害をいう。性的虐待は、しばしば特定の加害者、被害者関係で長期にわたって行われる。一般に性的虐待は身体的虐待と複合している。



『家族心理学事典』 日本家族心理学会監修 金子書房 1999年
開架(主題別参考図書) J367.3/KAZ (001379734) p.185

犯罪

請求記号	書名	編著者名	出版者	出版年
140.8/SHI/20	犯罪心理学への招待：犯罪・非行を通して人間を考える（新心理学ライブラリ 20）	安香宏著	サイエンス社	2008
326.3/FUJ	犯罪・非行の心理学（有斐閣ブックス 686）	藤岡淳子編	有斐閣	2007
326.3/FUK	ストーカーの心理学（PHP新書 018）	福島章著	PHP研究所	1997
326.3/KON	犯罪心理学：加害者のこころ、被害者のこころ	小西聖子、伊藤晋二著；武蔵野大学編	角川学芸出版；角川書店（発売）	2003
326.3/PHP	犯罪心理学：いったい何が、人を犯罪に走らせるのか？（雑学3分間ビジュアル図解シリーズ）	PHP研究所編	PHP研究所	2008
326.3/SUT	ストーカーの心理：治療と問題の解決に向けて	P.E.ミュレン、M.パテ、R.パーセル共著；安岡真訳	サイエンス社	2003
326.3/TAK	面白いほどよくわかる犯罪心理学：殺人、窃盗、暴力…人はなぜ罪を犯すのか（学校で教えない教科書）	高橋良彰著	日本文芸社	2005
368.6/IWA	人はなぜストーカーになるのか	岩下久美子著	小学館	1997
368.6/SAK	性犯罪の心理：あなたは性犯罪の実態をどこまで知っているのか？	作田明著	河出書房新社	2006
493.7/KOK/5	脳と犯罪・性犯罪・通り魔：無動機犯罪（心の病の現在 5巻）	中村俊規〔著〕・小田晋〔著〕・作田明〔著〕	新書館	2006

刑事事件にするには・・・

強姦罪、強制わいせつ罪、準強姦罪、準強制わいせつ罪は、被害者のプライバシー尊重の観点から親告罪となっていて、被害者が告訴をしないかぎり刑事事件として扱われない（刑法180条）。ただし、複数で犯行に及んだ場合や、強制わいせつや強姦の結果、女性を死亡させたりケガをさせた場合には親告罪ではなく、被害者の告訴がなくても刑事事件として扱える。告訴期間は、犯人を知った日から6か月である（刑事訴訟法235条）。

セカンドレイプとは・・・

性犯罪の被害者が告訴したことによって、マスコミなどから興味本位に取り上げられたり、プライバシーを侵害されたりして、二重の屈辱を味わうことをセカンドレイプという。そして、性犯罪にあうのは被害者にも落ち度があるという「被害者落度論」によって、不当に女性が非難され、加害者と被害者の立場が逆転し、告訴を取り下げたり、告訴をあきらめて泣き寝入りしているケースが多い。

『女性生き生き事典』 渥美雅子編著
東京書籍 1997年
開架（主題別参考図書）
J320.3/JOS (001000967)
p.443-444

2009年10月8日 発行
編集・発行 追手門学院大学附属図書館
〒567-8502 大阪府茨木市西安威 2-1-15
(TEL) 072-641-9640 情報サービス担当
(E-mail) lib-service@office.otemon.ac.jp
(URL) http://www.oulib.otemon.ac.jp/